

広陵町放課後子ども育成教室の民間運営に関する サウンディング型市場調査 結果

ア. 事業アイデアについて

<p>1 事業運営の方針(コンセプト)</p> <ul style="list-style-type: none">●一人ひとりの子どもが愛されていると感じることができるように守り育てる●子どもの成長をともに喜びあえるように手を携えていく●働く保護者が安心できるような運営システムを構築する●地域の人々とふれあい、ともに生きる地域社会の形成を担う●小学校や保護者との関係強化に努める●公営と異なる特色を持った放課後児童クラブを運営することで子どもや保護者がより自分達のニーズにあった放課後児童クラブを選択できるようにする●複数の習い事のメニューを放課後児童クラブに付加して運営する●子供達が自ら通いたいと思う放課後児童クラブ運営を目指す●空き家等を活用し、子ども達の新しい居場所の確保を行う●25年以上の保育園運営実績を生かした、毎日の生活の中で楽しく学び成長してもらえる安全安心なクラブ運営を行う●障がいの有無や経済格差なく、どの子どもでも遊びに集い、保護者も気軽に集える場所●子どもたちが「ふらっと」遊びに来て「ほっと」できる居場所の提供を目指すと同時に、要保護児童等も利用しやすい居場所や保護者が相談しやすい環境の整備を行う●第2の家として、子ども達が自分の能力に気づけるような場所、心安らぐ場所を提案する●法人が運営する放課後児童クラブ(89施設)・放課後子ども教室(12施設)・子ども居場所事業(4施設)のリソースを活用し、保護者が安心して預けられる施設運営を目指している●職員確保については、既存職員の人事異動のほか、地元の人材を雇い上げて確保する
<p>2 施設確保の方針(具体的な候補地等あれば)</p> <ul style="list-style-type: none">●事業者が近隣の物件を確保する●事業所が近隣物件を確保するが、受け入れ人数が多数の場合旧もくせいクラブの利用も検討する●旧もくせいクラブや行政施設の空きスペースを活用希望●近隣物件と旧もくせいクラブの併用を検討
<p>3 提供するサービスの具体的な内容(自由提案)</p> <p>【開設時間など】</p> <ul style="list-style-type: none">●放課後から18:30まで(長期休業中は7:30～19:00)●19時まで可能●追加料金を加算することで19時以降の保育にも個別対応可能(20時までなど)●最長21時まで可能●公設の放課後子ども育成教室がお盆休み中の8月14日から16日も開設し、他クラブ利用児童も受入可能 <p>【受け入れ人数】</p> <ul style="list-style-type: none">●80人の受け入れを想定●事業初期は20人～30人の利用児童を想定●受入人数は40名程度を想定●施設規模によるとの回答もあり

広陵町放課後子ども育成教室の民間運営に関する サウンディング型市場調査 結果

【利用料金】

- 町の利用料金に合わせるよう検討する
- 独自に料金を設定する予定
- 学童保育中の習い事利用料金は別途必要(学童実施場所以外での習い事の場合、送迎・引率料金も必要)
- その他、教材費、おやつ代、送迎費が必要

【食事の提供について】

- 長期休暇中の昼食(弁当など)を提供可能
- 土曜日、短縮授業時に昼食や夕食の提供が可能

【サービスについて】

- 豊富なスタッフ研修を実施(法人理解、子どもの発達・対象理解、発達障がい理解、救急法等)
- お誕生日会、遠足、クリスマス会、キャンプ等のイベントを実施
- 学期に1度保護者との面談を実施。悩みが解消されない場合は、自社の臨床心理士やその他の相談機関を斡旋する
- 支援が必要な児童に対しては放課後デイサービス事業者との連携や専門職員の定期的な巡回訪問を実施
- SNS等を活用して保護者との連絡の利便性を向上
- 地域交流や社会教育等を目的として、地域の自治会活動へ放課後児童クラブとして参加
- 学校へ定期的に訪問することで放課後児童クラブの情報共有や連携を行う
- スポーツ教室や学習教室を放課後児童クラブのメニューの1つとして提供、実施場所までの送迎も含めて行う
- 補助員は専門指導者(スポーツ指導者など)を配置
- 学童保育中に学習塾、水泳教室、英会話教室等提携教室への送迎サービスを実施
- 近隣施設及び、自社保育園等で開催されるイベントにも学童保育の一環として参加
- 自治会等地域と協力して学童を運営していく
- 学校長期休業中は遠足・夏祭り・工作・手作り昼食等体験学習に力を入れる
- 半年に1度児童と保護者にアンケートを実施し運営に取り入れる
- 古書店と提携して本の寄贈を受けている。今後は職場体験等のキャリア教育に繋がるイベントを検討中
- クラブで撮影した児童の様子をネットで保護者に販売
- 施設が稼働しない平日午前中の時間をこどもの居場所確保事業の実施場所として活用可能
- エリアマネジャーを配置・定期巡回して保育体制や職員のスキルアップ(OJT)を図っていく
- 現行町外で運営している学童2施設と連携し、エリアマネジャーが管掌する

4 遠隔地(対象とする小学校から半径500m以上)に施設確保する場合の送迎方法

- 学校からの送迎については、学校周辺で施設が確保できた場合は、徒歩での送迎とし、遠方の場合はほとんどの事業者が送迎車を確保するとの意見であった

5 事業実施のタイミングや事業スケジュール等

- 3カ月程度で開設可能
- 人材確保も含めて6カ月程度必要
- また、施設改修が必要な場合、工事期間による

広陵町放課後子ども育成教室の民間運営に関する サウンディング型市場調査 結果

イ. 事業を実施するための条件等について

6 官民の費用負担割合や求める条件について、皆さまが求める内容をお聞かせください。

- 利用児童70人想定クラブ運営実績が無い場合、協議により決定したい
- 子ども・子育て支援交付金の間接補助を要望する（賃借料補助・送迎補助ほか）
- 町からの補助金が子ども・子育て支援交付金の間接補助のみであるならば、利用児童の見込み数によっては利用者負担額の値上げが必要
- 事業費総額の4/5を公共負担希望（総事業費2,600万円想定で約2,000万円を町が負担）
- 事業費総額1,400万円の2/3を補助金として交付希望
- 旧もくせいクラブ跡地を活用する場合、真美ヶ丘第二小学校駐車場の活用を希望

ウ. その他、提案していただいた事業内容を進めていくための課題等について

7 現時点で、皆さまが提案していただいた事業を実施していく上で、行政側に対する要望等があればお聞かせください。

- 利用者負担額軽減のためにも運営補助金の充実をお願いしたい
- 小学校のグラウンドを外遊びの実施場所として利用したい
- 利用者数が読みにくいため、想定より利用者が少なくなった場合、不足する利用者負担額を町側で補填できないか都度協議したい
- 価格高騰中の光熱水費・送迎燃料費についても補助金を可能であれば交付してもらいたい
- 子ども・子育て支援交付金の間接補助だけでなく、町単独で補助金を可能であれば交付してもらいたい
- 施設までの移動手段として、広陵元気号を活用したい
- 旧もくせいクラブ跡地の活用については、その賃借料を無料で貸与希望（事業実施予算を圧縮したいため）
- 子ども・子育て支援交付金の補助のみで運営し、保護者負担額は町（公設）施設と同額で運営する